

悪化幅からみる東日本大震災による地域別の影響

- ・東日本大震災、全国の10地域すべてが震災前（2011年2月）の水準を下回る
- ・『東海』『北関東』『南関東』の3地域、『東北』に比べ回復の遅れが顕著
- ・都道府県別、「愛知」「沖縄」など自動車産業や観光業を主要とする県が震災前より大幅に悪化

2011年3月11日に発生した大地震と津波、東京電力福島第一原発の事故による影響は被災地域のみならず、日本全土へ大きな影響を及ぼしている。今回は震災前の2011年2月と現在（2011年5月）のデータを元に、地域別で震災の影響がどのようであったか検証を行った。

まずは、全国の景気DIの動きを確認する。震災前の2011年2月の景気DIは前月比1.7ポイント増の35.4と4カ月連続で改善していた。同時期は家電エコポイントなど政策支援の終了で内需の回復に遅れがみえ始めていたが、中国などアジアを中心とした新興国向けの輸出増加を背景に、『製造』や『卸売』が全体をけん引するかたちで、緩やかながらも改善傾向が続くと見込まれていた。

しかし、東日本大震災の影響で、3月は前月比3.8ポイント減の31.6と大幅に悪化し、2010年10月（31.5）以来の水準に後退。4月も同1.2ポイント減の30.4と悪化が続いた。5月には同1.0ポイント増の31.4と3カ月ぶりの改善となったものの、震災前の水準を大きく下回る（2011年2月比：4.0ポイント減）状況が続いている。

地域別の震災前と震災後のDI比較（2011年5月 - 2011年2月）では、『東海』の悪化幅（2011年2月比：7.2ポイント減）が最大となった。次いで『北関東』（同5.2ポイント減）、『南関東』（同4.4ポイント減）、『中国』（同4.1ポイント減）と続いた。一方、最も悪化幅が小さかった地域は、『北海道』（同0.6ポイント減）で、次いで、『四国』（同0.8ポイント減）、『北陸』（同2.3ポイント減）、『九州』（同2.9ポイント減）、『近畿』（同3.3ポイント減）となった。

全国10地域すべてが震災前を下回っており、震災の影響は日本全土に広がっていることが読み取れる。直接被害が大きかった『東北』の悪化幅（同4.1ポイント減）を下回ったのは、全国10地域中5地域にとどまり、3地域は『東北』の悪化幅を上回った。

悪化幅の大きかった『東海』『北関東』は自動車産業などの製造業が盛んな地域で、『製造』の10地域別でも、『東海』が同9.0ポイント減、『北関東』が同7.9ポイント減のワースト2となっており、震災による物流の寸断や、東北の部品メーカーの被災などによるサプライチェーンの影響を大きく受けた。『南関東』は被災地域に工場や営業所などを持つ企業が多いことなどが影響した。

一方、『東北』は3月が地域別で前月比7.7ポイント減と10地域中で最大の悪化幅となったものの、全国からの集中的な支援や復旧、復興作業の高まりなどもあり、悪化幅は大きく縮小した。

都道府県別の震災前と震災後の比較では、「愛知」の悪化幅（2011年2月比：9.1ポイント減）が最大となり、次いで「沖縄」（同8.5ポイント減）、「山梨」（同7.2ポイント減）、「栃木」（同7.1ポ

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

イント減)「青森」(同 7.0 ポイント減)と続いた。「愛知」はサプライチェーンの混乱で自動車産業が大きく悪化したことなどが影響した。「沖縄」は原発事故による放射能漏れや消費自粛の影響で3月から5月の国内外からの観光客が前年比で約2割減少し、観光関連産業が大きな打撃を受けたことが要因として挙げられる。「山梨」

「栃木」も大手企業の製造拠点多くサプライチェーンの混乱などにより、『製造』が震災前の水準を大きく下回っていることや観光関連産業が大きく落ち込んだことが影響した。

一方、震災前の水準を5月時点で上回ったのは「鹿児島」(同 1.4 ポイント増)「徳島」(同 0.7 ポイント増)の2県のみでその改善幅も小幅にとどまっております、震災の影響がまだまだ広い地域で続いていることが明らかになった。

10地域別			都道府県別		
順位	都道府県	増減	順位	都道府県	増減
1	北海道	-0.6	1	鹿児島	1.4
2	四国	-0.8	2	徳島	0.7
3	北陸	-2.3	3	秋田	-0.3
4	九州	-2.9	4	愛媛	-0.5
5	近畿	-3.3	5	北海道	-0.6
6	東北	-4.1	43	青森	-7.0
7	中国	-4.1	44	栃木	-7.1
8	南関東	-4.4	45	山梨	-7.2
9	北関東	-5.2	46	沖縄	-8.5
10	東海	-7.2	47	愛知	-9.1

※増減は2011年5月-2011年2月で算出

被害が甚大な地域について

大地震と津波の影響を大きく受けた『東北』の「青森」「岩手」「宮城」「福島」では震災前と震災後の改善傾向にばらつきがみられる。

「青森」は本州最北端にあり、他の被災地域に比べ関東など中央からの距離が離れていることが支援の遅れに繋がっている。また、原発問題などで農林水産関連業が大きく打撃を受けたことやゴールデンウィークの観光業が奮わなかったことも影響し、『東北』6県で最大の悪化幅(2011年2月比:7.0ポイント減)となった。「福島」は原発の事故処理が遅れていることやそれに起因する放射能汚染の懸念から、復旧・復興作業が遅れており、震災前を大きく下回った状態(同5.3ポイント減)にとどまっている。

一方、「岩手」(同0.7ポイント減)「宮城」(同0.8ポイント減)は、新幹線や東北自動車道など交通網の回復で、復旧・復興支援が「青森」や「福島」に比べ集中しており悪化幅は大きく縮小している。5月には「岩手」が前月比7.5ポイント増(2011年5月改善幅:全国第1位)「宮城」も同6.3ポイント増(同全国第2位)と大幅に改善し、震災前の水準近くまで回復した。

東日本大震災は地震や津波といった自然災害のみならず、原発事故やそれに起因する電力不足などで、地域や業界に関わらず多くの人々がいままでの生活を見直す転機となった。

今回の分析では、津波など直接的な被害を受けた地域でも回復にばらつきがみられ、間接的な被害でも大きな被害を受けている地域があることが、明らかとなった。

この震災を一部地域の災害としてとらえず、日本全体が大きく変わる契機であるとしてとらえ、今後も被災地と日本全体の発展に繋げるという意識をひとりひとりが持つことが肝要であろう。

(産業調査部 経済動向研究チーム K.N)

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。